



司祭としていつも神の恵みの偉大なわざを感じています。

私が属する修道会「聖心布教会（MSC）」のモットーは「イエスの聖心が世界のいたるところで愛されますように」であります。私、本小教区の司祭でありますアバリ・アルン・ジョン・クマールは、2001年にインドのバンガロールの地でこの修道会に入りました。そして、その後、2006年に初誓願、2012年に終生誓願をたて、2015年6月29日に司祭に叙階され、同じ年の2015年10月29日に日本に派遣されることになりました。

そして、2019年7月1日から日本の名古屋教区に属するこのイエスのみ心の聖母教会（福井カトリック教会）の司祭として赴任することになりました。

このイエスのみ心の聖母教会（カトリック福井教会）の信徒の皆様は様々な国、文化など異なった背景をもった人々の集まりですが、1つに結ばれた共同体を形成しています。聖書のコリント人への第一の手紙（第12章13節）では、次のように述べられています。「私たちは、ユダヤ人であれ、ギリシャ人であれ、奴隷であれ、自由人であれ、洗礼を受けて皆一つの「霊」によって一つの体に組み入れられ、また、皆一つの「霊」を飲ませてもらったのです。」

聖書は教会で集まる私たち自身だけのために隠されている宝物ではありません。この宝物は全ての人と分かち合うものです。教皇フランシスコは「聖書の喜び」の中で次のようにお話されています。

「心配するな、私の子よ。私はいつもあなたと共にいる。」

この言葉はいつも私の母が私に言ってくれた大好きな言葉です。

私の心の中ではいつも「あなたは私の中におられ、私はあなたの中におります。」

という言葉が生きています。

私にとって信仰の生活はイエスの使命に生きることであります。